

## 編集後記

●今号では、「下水道資源の有効活用とエネルギー利用」を企画・構成における基本的なテーマとして設定し、編集を行いました。

●メッセージは、岡久宏史・国土交通省下水道部長に「循環のみち下水道の成熟化」をテーマに執筆いただきました。岡久氏はこの中で、下水道における新たな施策や目標はすでに出尽くしているとし、重要なのは、それを具現化するための戦略と具体的な行動であり、「コンセプトからメソッド」への頭の切り替えが必要だと述べています。これからの下水道事業の方向性を指し示す示唆に富んだ内容です。是非ともご一読ください。

●本機構の取り組みの一環である新技術セミナーおよび新技術研究発表会の基調講演の抄録を掲載しました。新技術セミナーは、津野洋・京都大学大学院教授による「下水汚泥のエネルギー化技術の現状と展望」を、新技術研究発表会は、塩路勝久国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道事業課長の「下水道をめぐる最近の話題」と、佐藤嘉晃・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構省エネルギー部部長の「NEDOにおけるエネルギー技術に係る取り組み」です。いずれの講演でも、下水道資源のエネルギー転換が大きなテーマとして語られています。

●エンジニアングレポートは、衝撃弾性波検査法を用いた小口径管きよの劣化診断技術について解析原理や適用性などをまとめた「衝撃弾性波による管

路診断に関する共同研究」、マンホールふたの性能劣化や機能不足によるリスクの評価手法から維持管理手法までを示した「下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する研究」、ペレット蒸気ボイラを中心とする小規模向け汚泥燃料化システムの経済性や温室効果ガス削減効果などを検証した「小規模用下水汚泥の燃料化システムに関する実用化研究」の3本を掲載しました。

●トピックスは、再生水利用や小水力発電、磁気浮上式単段ターボプロワなど、下水道の持つエネルギーの多彩な有効活用を行っている川崎市・入江崎水処理センター・西系高度処理施設を取り上げました。同センターは神奈川県で最も歴史のある施設ながら、東京湾の水環境改善はもちろん、下水道の持つ未利用エネルギーや再生可能エネルギーを可能な限り採用した「環境配慮型高度処理施設」として再構築。最先端の水環境技術を国内外に発信しています。

●今回のユーザーレポートで紹介したレシプロ式汚泥かき寄せ機は、少ないエネルギー消費でいかに安定して効率的に汚泥を回収し、処理するかに関心の重点を置いた画期的な技術です。処理場新設の際に、いち早くこのシステムに注目し、導入を行った菊川市の菊川浄化センターを取材しました。今後増加する水処理施設の改築・更新での採用が見込まれ、アセットマネジメントの推進にも貢献する技術として注目されています。

(編集委員一同)

## 表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、こどもの写真を表紙写真のシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、川崎市上下水道局下水道部管路課・羽嶋南州（はじめなんしゅう）さんの長男、晴州（せいしゅう）くん4歳と美音（みと）ちゃん1歳です。お兄ちゃんの晴州くんは戦隊ヒーローやレゴブロックに夢中。美音ちゃんは乗れないものの自転車に乗るお兄ちゃんを一生懸命追いかけているそう。木洩れ日に映えるふたりの笑顔と、それを見守るご両親の姿が透けて見えるようですね。

## 下水道機構情報

Vol. 5 No. 16  
2012年3月

平成24年3月30日発行 発行者 石川 忠 男  
編集者 江 藤 隆

編集委員：神原 浩／井上 茂治／石井 健二／  
多田 明男／竹内 徹也／南 政慶／尾上 裕二

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階  
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512